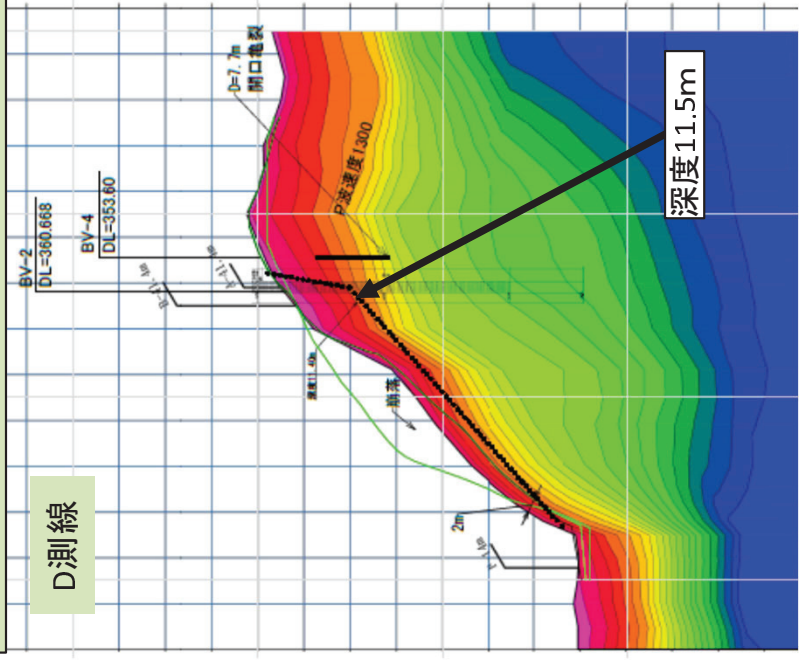


### 3.3 調査結果まとめ

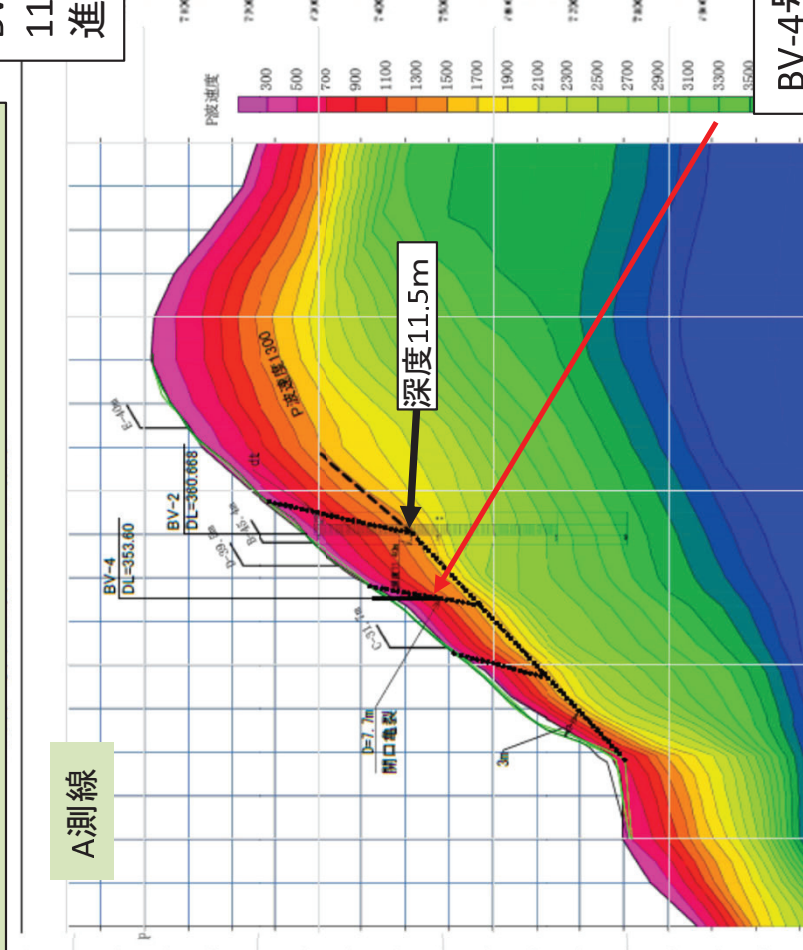
- ・暫定的な調査結果より道路法尻部ではP波1000～1300m/s層が2～3mの層厚で認められ、斜面中腹部で実施中の調査ボーリングの風化層及びボアホールカメラで確認された高角度開口亀裂と現地状況が調和的な結果が得られた。
- ・暫定的な調査結果では法尻の風化層厚が2～3mであることから現在施工中の鉄筋挿入工の設計値とほぼ一致する。このことから崩壊及び地すべりに対する効果が期待できると考えられる。
- ・崩壊地背後にはクラック等を包括する地すべり地形が存在する。弾性波探査の結果より、さらにその背後に低速度帯が連続している事が判明した。この為、今回発生した崩壊の影響で地すべりブロックの不安定化、さらにはその背後の斜面も不安定化する事が懸念があり十分な観測・監視が必要と考えられる。



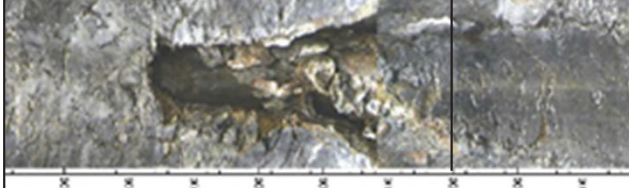
BV-2号コア写真。深度11.5mまで風化・ゆるみが見える



D測線



A測線



深度7.7m

BV-4号ボアホールカメラ。高角度の開口亀裂